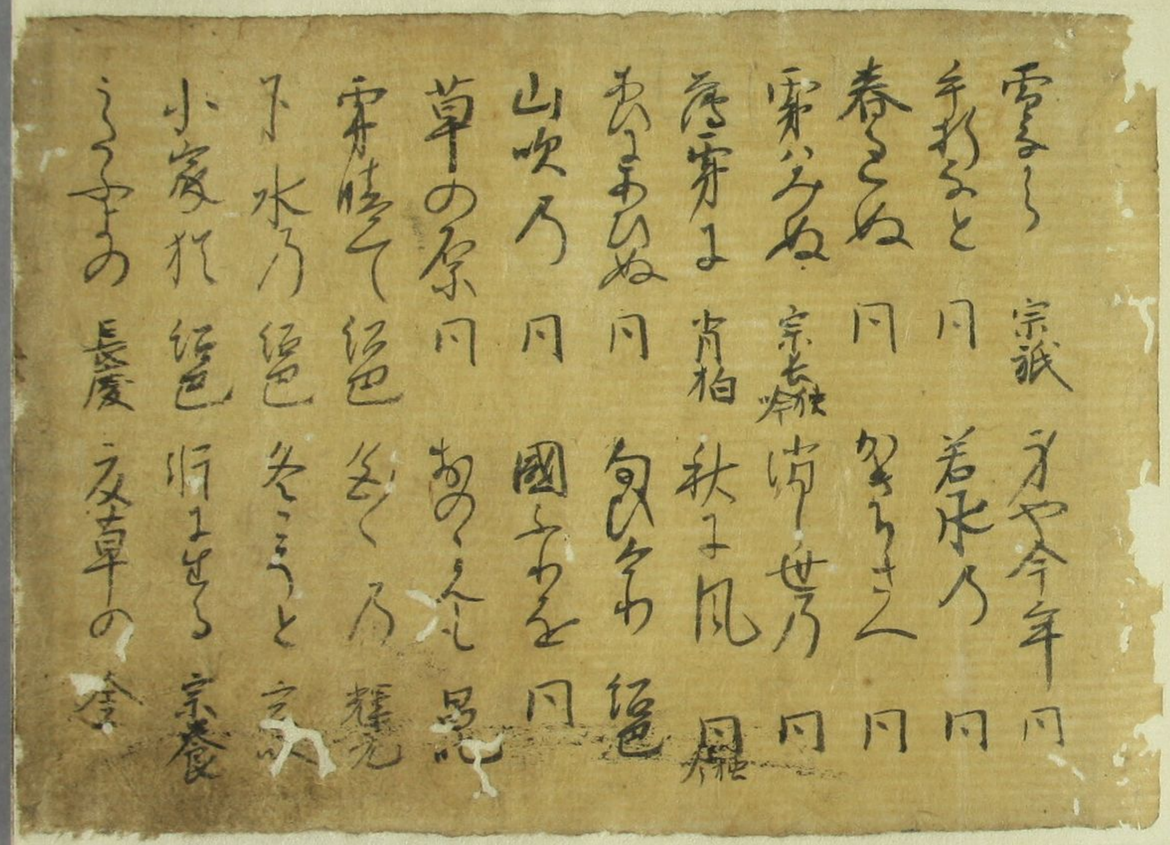
伊地知文庫
文庫20
38



雪ふる　宗祇

年や今年　同

手折ると　同　若水乃　同

春ふる　同　匂ふ也　同

雪分ぬ　宗長　清世乃　同

落雪よ　肖柏　秋ふ風　雁

あるまひぬ　同　白雲　絶

山吹乃　同　國ふを　同

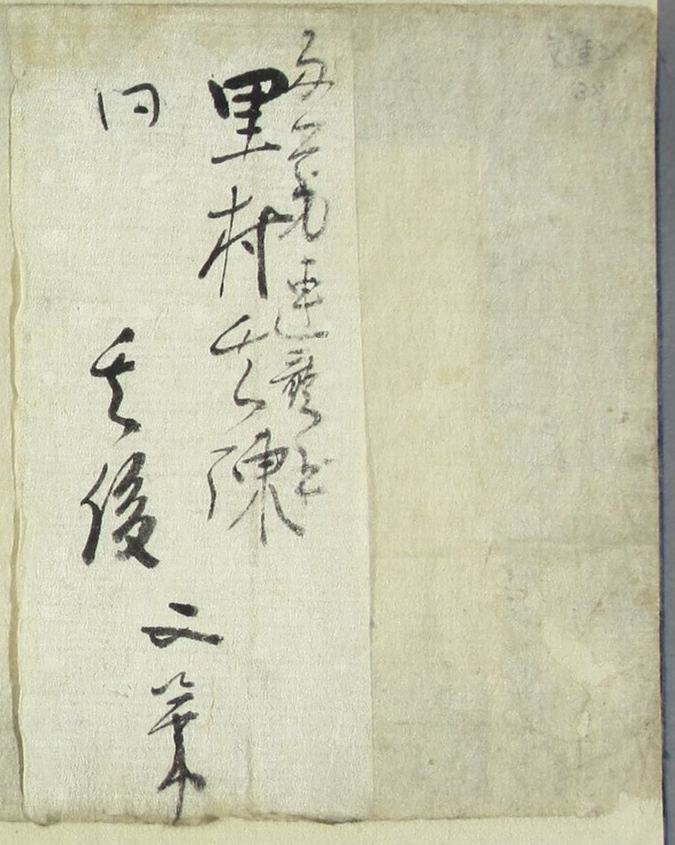
草の原　同　初ふ昌

雪時て　絶　色乃　雁

下水乃　絶　冬ふと　文

小夜ふ　絶　行ふる　宗養

ふるの　長慶　友草の　舍



里村紹巴陳

同　ふ後　二年本

[illegible] 色 [illegible] 萩の声 同

花の[illegible] 宗牧 月もあるる 斎

冷

友まつ月 四方より吹 同

明月や雲色 松ぬきの 景家

寺の春の月 小雨さく 同

[illegible] 同 雪ともき 同

[illegible] 梅 [illegible] 宗牧

杜若 [illegible] 玉藻 道祖先

[illegible] 宗長 かきつばた 宗牧

[illegible] 雪 [illegible]

水源百韻

伊達知良書冊

雪なる山[illegible] [illegible]

[illegible] 梅 [illegible] 墨[illegible]

川風や一枝柳 [illegible]

[illegible] 月や[illegible] 柏

[illegible] 秋ハ[illegible]

雪の[illegible] [illegible]

[illegible] 柏

山深き里や冬と成ぬる　芭
なれぬれば山さへ共に秋ぞ成　紙
しさに独あるまとの冬ごもり　柏
うつろうんと心ぞ思ひ　芭
垂庵に寒ふる雨は蕭蕭　紙
まくらゆふ夜の寒しの新　柏
くれぬるや明つる夢の冬ごもり　芭
古山とゆふ雲ぞ冬なる　紙
晴ぬまも袖は湿ぬ寝衣　柏
家毒桃月や屋ぬ冬ごもり　芭
浅ましの秋の夜の秋更く　紙
夢ぬ冬ごもりの秋の夕　柏

冬ごもりの秋の夕　芭
老のゆふ冬ごもりの秋　紙
冬ごもりの秋の夕　芭
枝に冬ごもりの秋　紙
雪ぬ冬ごもりの秋　芭
学ぶ今の冬ごもりの秋　紙
秋の夕の冬ごもりの秋　芭
冬ごもりの秋の夕　紙
冬ごもりの秋の夕　芭
冬ごもりの秋の夕　紙
冬ごもりの秋の夕　芭
冬ごもりの秋の夕　紙
冬ごもりの秋の夕　芭

さるの世の人は尽果く紙
へかれ　やいつちゆき　也
命のを待るに　はるきあよ　相
なもとなるなしやの　新紙
たもきそのあ　也
ち待はしくて　相
家あそ人なき　新の帰て　紙
月のうきやも　あれ　也
きちはの家を　ゆ待　相
月のまやまよ　紙
このうを唐紙の　て　也
まるはふこあ法と　や　紙

遠近の元の家に帰て　紙
月と秋風の　也
松虫の鳴　相
ちの中山　月のうそ　紙　相
待て家　て　也
くてきこりなよれ　の　相
名松の声田　紙
夕暮風のと　つ　人　也
想てなき　家や　深　相
そ風ともあ　山里の　紙
滋ことに絶　く　也
事かふん　の　相

秋なれども春の花や時雨れ紙
春は花秋は月をなぐさめ相
ふるさとの雨にぬれて来る雁門右
おくの海の波に浮かぶ舟紙
秋なきぬ北の空なる行くえ雲相
雪ふるやけきぬ四方の吉山右
岑の高木なるのほしあれて紙
さびしさは松間の秋相
淀くこの暁起くるまぼし右
春たちぬ物の秋をなげく紙
春ふるとうつる秋の神相
落花散るきたちまくもは右

新なる片山蔭に雪きえ紙
野とかすみ海とも俺つて住相
海の六絃の人やたん右
こもきも淀んなんなき紙
ひとりなるあやうの恋相
ふるさとの春さんかり右
山ゆかば春の草ちんん紙
うへの雪なるけき雪相
信濃路は笠田遠し相右
旅の人ふしみの北雲紙
やどりもん野と宮やいとまん右
さ花は七夕ちんうう桜ちん陰相

灯と背くるの物く　祇
さき平枕と夢ハうつ　長
もきりや　柏
いまゝの数山も　祇
ひくほすもちきてゝ人屋　長
さくもうき毋うれむの　柏
枕のくゝて外タの烟て　祇
うゝの墨よりて行ん　長
秋風のあ砂枕ゝ俺ぬ　柏
原ゝ山の月更ゝ　祇
小萩原うつろ京あ　長
あゝの初野くんゝ　柏

ゝ長ゝ夢うつ　祇
初人大い法ゝ尾　長
仏ゝ長ゝ文出る世　柏
柿林もゝ風ゝく　祇
山けさゝ秋柏ゝ　長
多ゝのゝ京柏　
いやゝきゝ月ゝ祇
人ゝ夢ゝ西ゝき　長

宗祇　三十四
宵柏　三十三
宗長　三十三

明應八年正月廿四日

於宗低房室

何紙

今年ばかりとてとしの暮 宗祇

まつ咲ぬ松山の花のうへ 宗长

雪の明ぬる千里も雪消て 玄清

あはきこゑの春のうぐひす 宗祇

紅ゆふ雪のくれ行ばかり 枝

人ふるぬ月の夕ぬ 宗伸

さ霧やとふに秋の高嶺 宗祇

梢ふるる春わすれて 宗祇

俤は山ぶかき雪の花 宗碧

なかなかに清ぬ春の夢 宗憲

ぬるあてもなほ春ぬ 宗祇

袖ぬれぬ人ハわすれぬ 宗祇

又後を頼ぬ人ハ 宗长

まくらのあるハ世世ぬ 宗祇

何とう人ハ是ぬ 宗長

あくし家ぬ家の古 仲

月ハ定ぬ月ぬ 清

きあるぬ人ハ 道

しらぬ松ぬ 長

旅立ぬ 哲

一義にはあひしらの風流紙
ぶりといふうん頑
大このはるもまとまと年の事極
雪をふつもる宿の乃道也
指やぬ世の蔦まりい清
うぬすとも仲やちうん也
硯なる数ふうの紙
指しけるとれもおりあ清
虫のふうちけ撰也
月ふれ行道のさひさ外
山風の吹更ふ也坂
言の名ふ雲も村紙

仲ふ言ふいと馬仲後
友の中ふうき人清
琴の旨ふ深まき心を浮道
ふいふ乃ふ後
火ふふ炉絶ふ往ふて紙
ふもきふけふ凝ふ角ふ極
雪はき雲を浮ふ月清
指ふふ言ふ弱のあ旨也
大ふ指ふふ雪のけふ毒ふて仲
松の事れ神ふふき紙
はふ角ふ金川ふ深ふき体ふ紙
さふふ門ふ雪ふ一ふ也

清しらぬ国とは思へど紅葉の錦
ひとへに秋のなかめかな 右
清澄のとなきこゝろに廣て後
なほしなし山さとの音 拔
花もなかめやとゝろ小舟人 清
まつもまのの春ゝ暮ゝ川 拔
三才 面々拔面代水ゝ水ゝ 右
ゝての田面ゝ今やきゝん 紙
契つゝ面きあくき名残 緯
なかゝゝもつゝにゝ 後
道ゝき中ゝゝ とはゝ 紙
牛のあゆゝの手ゝ小車 清

いなもゝて清ゝ波ゝ清ゝ際 紙
さゝゝゝゝ世ゝ歌ん 右
山深く泛絶ゝ 右
雨繁ゝつゝ 右
野ゝゝ みゝ 紙
こゝゝゝ嵐ゝ秋の風 拔
清ゝつゝ神の上 右
相松ゝゝ波の上清ゝ 紙
三ウ なゝゝ長ゝ 清
松一ゝゝの嵐の中ゝ 拔
庵伊ゝ庵ゝ墨ゝ 右
さゝゝる山ゝ 紙

[illegible]の雪[illegible]起て春
[illegible]も[illegible]る和の理火　仲
[illegible]のつる月しも[illegible]る夜よ　俊
なをおもしけ[illegible]ぬる池
秋の月や[illegible]の[illegible]光[illegible]清
[illegible]なきこの[illegible]北[illegible]東　紹
[illegible]月[illegible]の[illegible]の[illegible]　祇
[illegible]人も[illegible]や[illegible]年[illegible]　俊
[illegible]も[illegible]き[illegible]年[illegible]　去
[illegible]風[illegible]　遠
[illegible]名オ[illegible]　乃
[illegible]なお[illegible]雪中　池
[illegible]なおも[illegible]山　哲

[illegible]　祇
[illegible]　去
[illegible]　乃
[illegible]　恵
[illegible]　仲
[illegible]を[illegible]　池
[illegible]身に[illegible]　祇
[illegible]　清
[illegible]　俊
[illegible]　去
[illegible]里[illegible]　池
[illegible]　俊
[illegible]　哲

文亀二年卯月廿四日

於伊香保湯

何夜　宗祇

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ぬ花も哀深くて　坡
業の[illegible]　桜もる信　紙
[illegible]　紙
[illegible]の[illegible]の　坡
[illegible]紙
[illegible]人[illegible]紙
[illegible]　坡
[illegible]　紙
余の[illegible]
[illegible]やうん秋の唐　紙
[illegible]の[illegible]　坡
[illegible]　紙
又やあ[illegible]　紙
[illegible]の友み〇　紙

[illegible]も[illegible]　坡
[illegible]　紙
山[illegible]　頌
[illegible]　坡
[illegible]　紙
[illegible]人も[illegible]　紙
[illegible]　坡
[illegible]　紙
[illegible]　坡
[illegible]　紙
[illegible]　紙
[illegible]　紙

新宮に漢文清て書江坡
君ゆきまつ松の一しら紙
為りへやうつる雪みる窓前で冬
あしにうる山ものを坡
ちなもの春の美弱内ゆる紙
家のもうなる長しうい紙
莫吹遠れる自ゆ長もれ坡
紬みもれの面新もし紙
為ゆうに枕りして山遠紙
あれあまるの之ひ坡
ちうもう三春ゆ坡
狩男あるれ山ゆ紙

信濃なる松ノ尾山北麓に咲る
躑躅をいくの花をつゝみ紙
葉のまゝ咲年毎の遠
所の別に多く高山人
屋敷にあるべき世ハなき物と
いきよそ立振ハ
見よ山の赤花ハ桃
和漢書に所ハ
堤あるの明門
一日ゝ多る秋
夕辛ゝ老ゆ
つゝしよ神ハ

宗紙 冊四

宗碩 冊三

宗坡 冊三

何人

氷の鏡や時雨の雲の影
紙

[illegible]年八十九歳
桜花[illegible]早咲也
同

[illegible]
同

[illegible]
紙

[illegible]
同

[illegible]
紙

[illegible]
同

[illegible]
紙

[illegible]
同

[illegible]
紙

今こんも方八うきこれ
仮のまくと八海ほとの西　紙
長世八あさまくもの
却てくたれの風義之　紙
いつちに沈方子し春雪　紙
清水や郭山之〇いの日雪　紙
多人之所来とるき道通　紙
道の枝の秋乃ゆめる寺　紙
きくに清明や多の月　紙
清水の霧の風の月し　紙
あるく人の腸に掛ゆ猫ゆ　同
まくなるもやさ家も清　紙

別きて新も今八うつの山　紙
学さ人さ後の松く来　紙
初毎人の海ゆ世く後　紙
松ゆ風やまのせ乃友　紙
人生海ゆ宿八水のこ鶯　紙
古き新ちのゆ月毎氏　紙
新ゆわれし八家の石　紙
なまのちさけも世ゆれ　紙
暁さ青の海のくく　紙
ゆ前の元やさ松の山　紙
祝まて寿後くもの月風　紙
さくくさ毎九水寒き　紙

行幸に人々浦くれはの雪ふる
山つき波墨のたちけさ 紙
桂こそ雲きえ冬の山かせ
ぬきもあまの雪 紙
白雲のうつやうつろふ花ぞ
さそふ 紙
宮こ人精舎落て京まよ
月ぞまち花ぞ 紙
山のもの言はの京遠く
岳への墨に夜ふる 紙
明石うら波近く鶴
ふるさと雪高 紙

ひとしほ松にしぐるの雪ぞて
みぞ桂の末ハつまもなし 紙
琴ぞ聞きタの浦ぬきの
おしや遠ぞまちふる雪 紙
さそひもゆく月ぞ 紙
人まちの秋ぞなく 紙
寝ぬ夜きこの神やぬ 紙
ふるハうてふ人き 紙
寄ぬ歌ん先の末 紙
ひとをぬきる古々のこれ 紙
旨信ぬの下萩ぬて 紙
さいくや所面山ぬき信 紙

[illegible]の月の村々を別て低
[illegible]浪よりもまさりいと也
[illegible]なる海の[illegible]より低
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

[illegible] 低
[illegible] 右
[illegible] 低
[illegible] 右
[illegible] 低
[illegible] 右
[illegible] 低
[illegible] 右
[illegible] 低
[illegible] 右
[illegible] 低
[illegible] 右
[illegible] 低

雲間の山川信こそ関なれ　右
海のそこなる水の涼さ　低
[illegible] 月数池古て　右
[illegible] 木うき　低

宗祇
家也

延徳四年卯月八日 天満宮文庫本

何船

春ゝあ物ゝゝや所ゝ郷ゝ石ゝ宿

ゆゝる梅のゝけゝゝ山ゝ陰　義

ゆゝゝゝ水ゝ清ゝゝ春ゝゝ

ゆゝ霞ゝ月ゝ月ゝゝゝ　盛

ゝゝゝゝゝ春ゝゝゝ　宣

ゝゝゝゝゝゝゝゝ　長

ゝゝゝゝゝゝ　春

一ゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四方の道も物うく感じて次
人まつ身の神もうらめし後
ふりぬるものあゆみの唐衣相
うつもへまさりてうつくしく右
おもかげ花ハ若紫と詠まて載
まさる道まつ春山へのさくら清
三ノ木
清やうめ雪ハいつとなくぬんん春
まつけても京きこゆるのは相
拾へき所もいさや老の来清
分のあくれもしんん次
うくつき秋よんもなら後
古歌ふるまとてつまさ秋低

うたうる御の情なかし載
落も時雨も山ふかうつる右
さやかに月もいつうん藏の神清
花ちきる夏の別いうる低
人もまつ風の雲やある後
ある海てうき毒くんにくし相
おもひ入よりの奥と見ハや右
毒のうくつ如月のうけ載
三ノ夕
流よる河の春信花咲く低
春くれてうつ川つの里右
紅ふる海ちのいつ少夫載
ひるもとくそ明ちく春

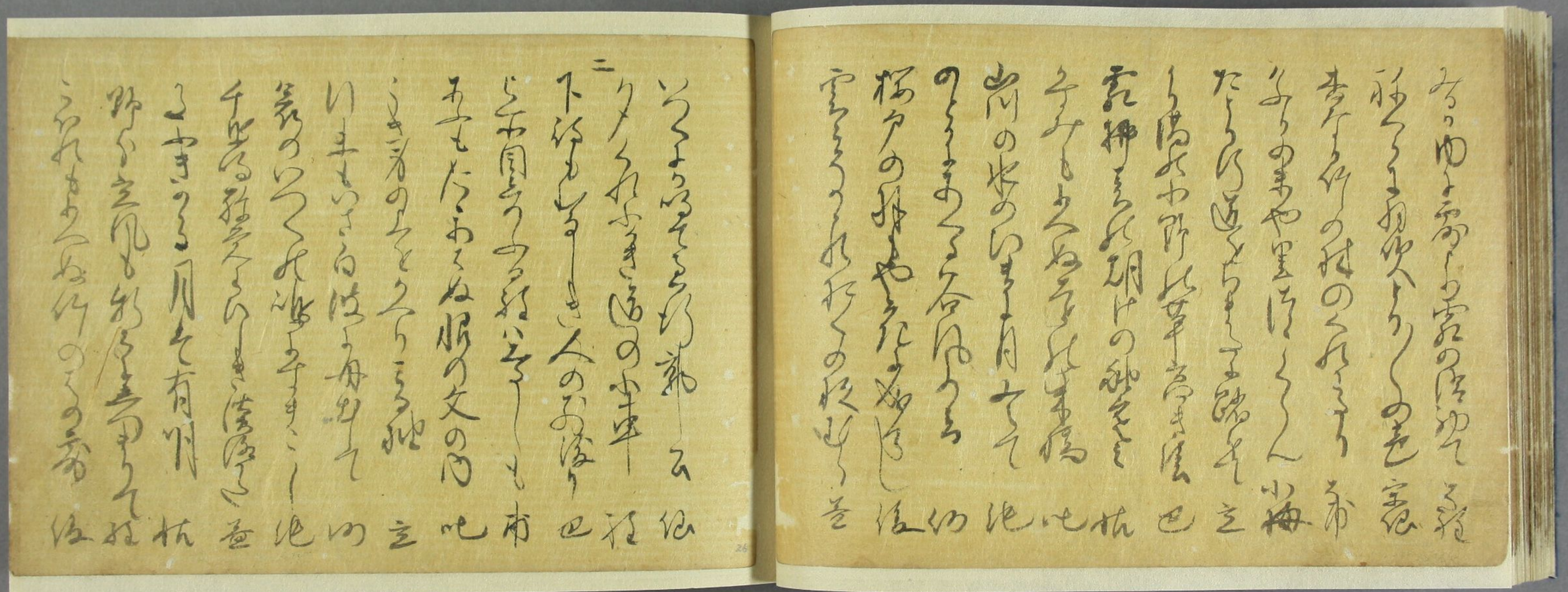
東ゆく雁の山のゝ唐ゝく低
やとりとるのゝ人まつ文やまのまん 俊
蓮生の法師山ゝ月ハ相
欲りなきうちの花 信
路めゝく雪ゝ道も立 右
あるゝかりのゝ玉の緒 我
まとなきゝ人ハあるも恨ゝ 益
ゝもしかゝ行ゝやま里 低
春ゝ日新ゝ宮あ柳の花 次
一日ゝ春ゝ風もあきゝり 相
落ゝるゝ五葉 信
行ゝゝ春ゝ雨ゝ 右

春ゝ雨ゝ里ゝ人ハ 低
春ゝ雨ゝ雲ゝ雲ゝ月ん 我
かゝ秋ゝ風ゝ 相
今ゝ春ゝ山ゝ雪ゝ 信
ゝ月ハ雲ゝ月ハ 相
なゝゝ今ゝ雪ゝ 右
春ゝ雨ゝ 低
堤ゝ海ゝ烟ゝ 益
ゝ船ゝ 信
降ゝ雪ゝ山ゝ 次
ゝゝ春ゝ雨ゝ 我

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天正十九年二月十日

何木

山の花の咲くころ　紹巴

さくらちりかすみ川　水新

山ぶきの花　ほとゝぎす　昌叱

月のなかば　月のなかの高

雪ふる田舎　雪の多　雪

くれて男鹿の里ちかき　雪

まつちる色　ふるく野と　麓

くれまさる　ほたる草　流

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三日のあさぼらけ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いろきハ[illegible]りつ[illegible]れ[illegible]
[illegible]れ花[illegible]
[illegible]の月[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三潮はやうち毎ごとの月ごと
[illegible]おもうしれぬの袖にて
[illegible]と記侍れ
[illegible]国の[illegible]れ　志
[illegible]又[illegible]
[illegible]せやうきまんの
[illegible]ひとれはあひ[illegible]
[illegible]
[illegible]の浦や[illegible]ん也
[illegible]れ[illegible]
[illegible]の見ハ時とをれ志
[illegible]
[illegible]二洞の白雲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天正十九年　九月廿二日

懐旧

草の原とふ灯を雲かな　道

りんりんと浮しかりの通ひ路
滝の音ゆゑと仕の風ふかれ
雲まよふゆふの河上の山重
月代もまちあへぬ雲ぬ玄仍
立とハいたてさとりの声聖
寺ゆ野人のう秋高正
桜ぬの年々ぬ山ぬ陸玄

きまもる風ぬ秋ぬ落
はぬくるいそ山と公
さ桜ぬ人ぬ雲ぬ降て以春
一ぬきまぬ水ぬ未春
桜ぬ陸ぬまくぬ花ぬ
ふ面みくぬ色ぬ
後ぬくぬ神ぬ沈
時ぬ花ぬ落くぬ地
くぬの秋ぬ月ぬ
ふぬ花ぬ
くくぬ年ぬ
後ぬ山ぬ風　正

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いかて暑さ[illegible]ん[illegible]と[illegible]
[illegible]月[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天正十九年　大月六日

羽柴

[illegible]

[illegible]

[illegible]

明わたる藤原の宮の名由
水のほとりの野もの下草は
方くさえるを初めぬるら
さとらぬ里人も初めきわ
もしきあをを書きて
根の原今は月ぞ
藤の秋の風の吹とあ
翌朝ぬるを天津乙女
書きつる人の方へ吹
引袖へ声の色の道
ぬるを門田やえを
日数ぬるを月の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たちのぼりて、ひとりえいてきつゝ
月のえんむすびの糸とるめて紅
ねがえのちぎりかなうべきゆゑ
うゝ行ゝ方のむの絵まきて也
三世の仏乃ゆるわるゝ此
変くよつゝミえうの仏者ゝ紅
二たなびやすきえんすゝ草ゝ
大原の野辺の鹿神の作紅
うゝくゝてゝ待いつゝ也
一夜ゝ寄わるゝえんる此
ちくしさの仏ゝうゝき陽

えんえくまをゝこもうゝ作ゝを
作まつの陽の小車
さゝふまいこをくゝ神ゝこ
ほゝてゝわゝ方えゝわゝ者ゝの山ゝ
仏ゝと遊ゝたゝのゝ者ゝ也
命のきえをたゝきゝ鹿
こまいゝかいゝなきゝ生の色由
野命の辺の言葉の草ゝ紅
月えゝて住ゝの間ゝさゝうえゝ
めゝて板ゝ者ゝ行ゝるゝ人ゝ生
桜えゝ行ゝ方ゝ
君ゝもたくえゝ二寸の道ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みなくして入日清き川岸にて後
ろ髪ひかれる心の哭行方の
あまりて島のかたちをかたもん陽
後まで行き行くに草わけ行く
道に牧夫の人つる野を見る
ひよりかれやうの草々 永玉
月のうち雲の所ねくらしき
きりきの木にかくまる義由
岩つぶ水の白き氷の小林
流せる雨のふるとき
かたつ雲つくる山陰也
ひけの行くいなんを

先立て行くやまの
ふもとの岡の秋のまつかた
乱れ行く面の野に乱れ
野けの人の
ふきつる雲
ふきの
ふるとき
あれわたる
色ふる人
ふるとき
三きてやと
為おれる前の月
雲のふるほうき
也

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百番うたあわせ　巻十八

さうのまきの歌　左

竹のうの千ねわすれぬ陰なれば

きて見れば行きの水のふる陽

ようこうるふるやうくまもうん所

今えみくわしうさ所

わ衣月よりまさりて艶

高雲ふれかすみ　宜

ふ春やうのひかり　松

赤ちうれわうふ所の道　左

うきわきくきの所　左

うくしきわ　巻

初雪えみとうの中天上四

羽吹よりきくうの色紅

水ひきの白の月の明わわ

つうとときやうあまの艶

を山の月わしの　巻

俗わう秋ちまうふも雲　左

いくうえやうきうふ寄宜

を西のけうう梅松　巻

仁元や花の枝のうの月　左

ふうこのひまよりあ所

春月の吹ちうの雲　左

さうこうきうの内弧

[illegible]陽

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天保九年　霜月三日

何木

下水のもとをとりて行えを絶
えて稲のおくのつきぬ立
川上の用水すむよりつゝ氣
秋風さむき川わのつゝ氣
了寒の頃やこの方のいまゝ
田つゝ多くすまるつゝ
被て孔分門道のむくすぎ
野へのいつくしやうさまの
元のつゝ山のつきて

清き川のきと絶
永やこしのゝ
ゝ山のきよ
行のゝ
あつゝ
二月
今年
中ゝ
毒の
父と
寒ゝ
うゝ

[illegible]の小野くをつの道を
[illegible]
[illegible]
[illegible]水やのこゝ[illegible]
作物田[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]秋の野を
[illegible]
[illegible]
[illegible]道[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]の中略
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の道の
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月ハ[illegible]者の[illegible]呼を[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ

[illegible]
むすびもとまらぬ道の久[illegible]
おいたちもとまらぬ世まちもある[illegible]
[illegible]
夏[illegible]
雲[illegible]
[illegible]月中の時[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
野[illegible]
秋の[illegible]

遠[illegible]道[illegible]
小川の[illegible]
水[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
三
[illegible]
[illegible]小田[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋のすさまじき言の葉
ゆいきあいわる田面の雁も替
為秀 ふるの内より所の敵
すみわたる月の天の橋立
水の色まで秋ぞふかまれ
法印おとろく後の夜の大
笠をもて神やの波の海ゆえ
ちきりてみえる中くらもれ
仍て文の西一三せきの花
鶯 あかつきとおく秋をしの
飛ぶつる二仍ふと人の沙ゆ
みやこのゆよ陸奥さの道也

せきまでと医ゆ仍東ゆ
三てゆ秋ゆ三てゆ文花
ときゆる所のむの酔人大
三のみとせ
れゆてゆ
ゆきゆ文人の
秋わゆきゆ
和三ゆけき者の
文ゆ法ゆ十
紙巴法橋
日大十句
昌叱十一
文仍十

宗敏七
小梅一
宗敏七
了表九
宗磐八
兼由八

天正十九年　霜月廿四日

初而

小家ノ道ある事の哀成
冬ノ頃ほとゝぎす　有つゝ時鳥
蛍の目の移方ようやき云　隠れ
霞のあくるゝ心ちして　晨
春立ぬる波ぬるもき者の面影
吹送るゝ風の末　帝
冷き月の宮ゆ　笛の音
ゆゝしく田中の家白き夜の

法橋　紹巴

里遠き野のあはれ　変
ある人きゝ主神乃神宮
参拝人等の花ゆゝしく京都
又ゝ夏の美の月未宮
あるゝとおりゝ　行
ふゝ中ゝ　巴
庭のさゝ
めくるゝ色ゝ
ゆゝ
きゝ今小の
ゝゝの野
京の下の

紹

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三

山人面影の一夜の朝明川
[illegible]
面代をたづねわたる岩の
岩の入り細き通ちの
[illegible]野辺の
[illegible]

山水の流の音の遠
[illegible]
[illegible]人の住ぬ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

武蔵野や草ふかしとて
つまこめ侘て新ふ帰庵此
山ふ吹方ふ出き少霞也
芦すゝきのみのゝ山
一ふしの松の日を宮ゝ
めぐるゝ月ふ中
ちゝ原のすゝきの穂
中天ふ月やしゝ入ふ遠寺
（法隆）
紅葉
（法隆）
法隆寺
文学の
文学
京白六
雅亭一
法隆寺
玄ハし九
嵐士
高天句
宗長
宗長七
謙歴三年九月十分
一校了

秋ふ入る日
武士ふ夢
霧ふ鹿ふ梅
本ふ月也
根ふ入る蛍
みれみ玄汉
月ふ入ハ晴朝
ふ出ハ一舟
法隆寺ふ
又ふ入る月
ふ入ふ蛍
山ふ入る月
を出ふ月
蛍ふ入る此
ふ入ふ也
子ふ出ハ蛍
春風々音
青柳ふ月
塔ふ入ハ蛍
法隆寺ふ行
法隆寺ふ
蛍ふ入る
下ふ入る蛍
初ふ入る
月ふ入る月

[illegible]山　桂子の賜

明けやすし　[illegible]　夕[illegible]　夢[illegible]

桂子を　[illegible]　月花は　[illegible]

[illegible]　立[illegible]　[illegible]

[illegible]　千[illegible]　[illegible]

[illegible]　梅し　同

白匂ハ　同　[illegible]　同

本[illegible]　同　風[illegible]　同

宝四年句

天正十七年九月廿六日

行人　紹巴

[illegible]月や　炭室の内

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

筏士の川上をくだりて只
神の口伝の秘事をうけ也
[illegible]
[illegible]
[illegible]
世をうらんと[illegible]
[illegible]
[illegible]

山何　源也

走湖と道信あるやうの宿
宮ゝもとゝもとゝ神言仍
ゝゝもとゝねの野の芝ゝて白
松の山月明るゝ夜　屋
塗ゝて月のつゝらゝゝ楊
枯風をゝ雪ゝ心
ゝ八千樓の月ゝ東
ゝゝゝゝ出乃ゝく蘆

初宰相　禪高
弃ゝ初のゝゝ人ゝ
池のゝれのまゝゝ
ゝゝゝ伝ゝゝ西ゝ原　清
住ゝゝれ行ゝの里　蟾
人ゝ松の下道ゝゝ　斉
降ゝ山ゝ雪ゝの色　松
ゝゝ八時雨の雪ゝて仰
明て風乃ゝゝゝ也
ゝきゝる春ゝの月ゝ問ゝ此
おゝたゝ千しちきゝゝ白
ゝれゝゝきんゝゝゝゝ心
ゝゝゝ文乃ゝの余　楊

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蛸の声よりはかなきてはの
ふもとをたりてすこし海
わたるふねもものさとうハ心
あれくるまきはのわすれ也
咲ちる花の色ハ白
芝をくれの草ゝ紅 叶
三 嶺之雪昔ハ庭ハ三月節ゝ楊
明り樹葉ハ面ゝ陰くゝと 仲
佛法ゝ月ゝ月ゝ 蓋
岩ま〳〵ハ水流〳〵清
なのりる家ゝ人ゝ声ゝて 叶
ゆなれいのすこき道 也

古寺のあるハ
高
高宗ゝ雪ゝ折ゝ心
林やつゝとまゝれ今朝の雪 動
ゝゝ人ゝきゝれ谷合 寂
そゝ所猪のゝもゝ作て 嶮
よゝあゝさゝ只ゝ高白
ゝゝ世ゝのゝ友やゝゝ 仲
身のゝゝゝ扉ハし 叶
ゝゝゝゝみゝゝ定りて 也
家ゝゝつゝまゝいのゝ言 高
ゝゝゝゝ雪ゝ上ゝ人 嶮

枝折して流れそう花の岩地
橋まもるとまさるもなし　仙
霧よりも有明の月の光にぞ仲
さえのてらす白風に来　楊
すまうの家よ秋の行方の　翁
雲みえて行方もなく遥　益
川ちかや月もうつる山の陰　白
きぬぐと毎のよろこぶ里　北
遠もそうて大小所のちん
もしたの表よまるるさうき　楊
咲ことをまつる面に春ぞ仙
うれ沙よ法の河霧　仲

みるうこ宮まさるの乳高
羽後もうち霧　門孔　志　法
ゆうこそせきやる歩の庭屋を　琴
松の植うの花乃いくもん
苔の段ハ三ちの法も望れ　楊
霧まれらくこそ乳の面白
紅葉のりきまきたも寺北
たのうこもそのうくもも也
面乳の宝さ人つる風乃内　楊
月ちそうこ川　庵のこうち　翁
とれねハうこまもみき神の屋益
宗主人と行みもつ人仙

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

廣長　和月大六

お大徒等伺尾張

信篤　号記

蕭れ果てあるみてん草の原
雲もみけとうる物　信篤
ながめて月行宮八岡高家
秋風さうる庭の[illegible]
甘田の面やすれる迄斎
下茶屋の柳いくそ霜
冷るより後うる寺信篤
あるまて行八小舟川池入

はまの人さの迄八村はて名如
ふるの原乃雲ふる文　廣相
野月雲うる山ふ風紅屯
池ふうしふる炭海宗朝
松屋の柳やふ[illegible]小林
のきらてふる信篤　心
手枕の月をふ松夢文て法
さふ[illegible]法のみふ[illegible]仏
信ふふとはやふて[illegible]
いふ[illegible]秋の[illegible]の雨　信篤
あふふる彩の[illegible]琳
海の[illegible]ふ草の[illegible]仲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

函のあるを一のぬしときこえ相
ぬしのもとにかくなん 淑
けるまてまひつかうまつる童
いくこのみしをとりてとりつき仲
ゐてをる事まゐりの花のかけ叱
をりからをみのしたもとの人 叱
三
元年のあしのとをりて 相
ゆきの江のいなのことをり 孫
へをぬる中をまゐりとまきを 不
をりてをる門の中 法
時なる出年ゐをかくるる 相
はもさう所のまのうち人 淑

をりをる大井のへをたうまる 叱
月出るまの夜や川をゆ 也
毎もをるをの江見をゆて 仲
をるをなれにをる池 仏
つきなる道の月出るれ 叱
ゆをこまる歌 如
不をけきをこまる小家家を 孫
不くまをれをりをる 不
をもあれをりをる 孫
嵐吹雲のをれのりをして
明れはををよをつ波流 仲
水上の松をやきをつ 相
をををし橋をこまる風をる人 相

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]原の野とみて春風
[illegible]人の[illegible]　元輔
[illegible]の[illegible]の友　隆
毎[illegible]　義
[illegible]の風[illegible]色
[illegible]　長治
今[illegible]花の[illegible]の糸
[illegible]
月[illegible]色の[illegible]野よ　宗[illegible]
[illegible]の宮梅
[illegible]　春
[illegible]　金

二
[illegible]の[illegible]
たのみ[illegible]中[illegible]白
今[illegible]人の[illegible]
[illegible]　冬
[illegible]　月
[illegible]
[illegible]の[illegible]　嘉
[illegible]　仙
[illegible]　也
[illegible]
[illegible]　陽
[illegible]
[illegible]　春

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]くの新しき金
[illegible]とくに八ツさかりの梅
三人の[illegible]たのしみ[illegible]
灯[illegible]二月 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天正十四年　四月十日

白河　浦

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天文廿三年三月廿六日

何人　芳巷返福　長茂

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二月廿三日　雨降る　新潟を出る
雲たちこめる　水上の雲　巻
本のもとの桜　兼元の流れて
京も近くなる　草也
うらやましの光　ひやうす巻
なほ久々里海の波　巻
波うつなるまつ　也
わすれのうまれて　里人巻
大うの作をうたふ　世巻
ゆゑ同者遠き　也
松一本ねたるやうなる巻
山水をとり　新巻

[illegible]
風のまよひ　巻
さうの花　巻
こゝにて花の　巻
ほの月　巻
併ちり　巻
芝　人　庭の長　也
こゝにて　巻
池　昼　巻
さの　人　巻
[illegible]　也
[illegible]　巻
[illegible]　巻

時雨降る外山の文付毎也
窓のもとやおもさすらん表
花さそふ匂ひを[illegible]表年を表
花の野へ蝶もねぬやうも也
明まする雲の事て問て表
灯ともし消つつ舟　巻
[illegible]表[illegible]也
くれ[illegible]山風の[illegible]
刺のたけをたのむの原ふく表
[illegible]表[illegible]也
今朝月[illegible]表[illegible]
[illegible]表[illegible]表

[illegible]也
[illegible]表
[illegible]也
[illegible]表
[illegible]表
[illegible]表

れむとたのまれぬきぬをしぼりて也
いのち命をあらそふ人なれば
世を家の思ふこころ体なる表
俗にてもせる雪をしぼりさる也
あるうらみなるあまの原
古代宋しる花の下陰 表
世をのく柳よりあきはてて也
ちりくるもみぢ葉の数なる
なのきこゑ神の家も時日よ表
良きうら風の京なるもの也
竹のあるを思ふこゝろ海なる
とこれは何の月もあるべき表

破しをみるのたためにうれしや也
ふくてを遠ふ流水生の言葉
義才八之年斗と惜き表
ふるまつ所のこゝろもへなるも也
昌なるこゝの長廣ゆるぬ事
こゝろもこゝも宗の用表
小冊さ流なるまれ蓬也
捨なる家をさこゝろ宗
移りくるこの家なる世やと表
林の竹をこゝろ竹の前也
夕魚和尚住なるこゝ表
ゆる事とりこゝその道一宗

[illegible]

[illegible]

[illegible]

吹すさぶ風なほの音そ
板のみすもゆるがすしをる 同
まこうとのそふのあ浦波 同
なくや塩手しをるる比 表
月のかたらひくるもあはれ 同
そこんうきまきの道 同
草道なかれ八月廿七 表
秋のうしまさまつ旅の袖 同
秋もえ行くこの夕 表
うらみふれかくもくれぬる 同
同夏人とおもへよ三れ 表
後ゆくるゆめもあるも 同

本来こうきまきのたくいなきえ 表
ふるあよ板屋の色 同
屋根の岩波ふるあさみ 同
ふるえまの白雲 表
たちそへかさうと 同
をさるうう人の色つき 同
きまとあう草ふる出 表
うらの松しまもる 同
なるこんしをたつむ 表
ふるをとのそよ 同
風ふるまのよ月ふ寺 表
灯ひそき時の方 表

月くまなきもの物事はなれ春
きあてすまし心うきさねの寄春
たのめこと人の妻の妹の月春
こゝろもなかの神の宮なき昔
たゆまぬ君を思ふ心
とゝれば
天和一年
百首
うらなし春
うらとなりぬ春
うらとなりぬ春
うらとなりぬ春
うらとなりぬ春
うらとなりぬ春
うらとなりぬ春
うらとなりぬ春
うらとなりぬ春
うらとなりぬ春
うらとなりぬ春
うらとなりぬ春
うらとなりぬ春
うらとなりぬ春
うらとなりぬ春
うらとなりぬ春
うらとなりぬ春
うらとなりぬ春
うらとなりぬ春
うらとなりぬ春
うらとなりぬ春
うらとなりぬ春
うらとなりぬ春
うらとなりぬ春
うらとなりぬ春
うらとなりぬ春

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文禄四年二月九日

何路　　玄旨

春風に[illegible]行の柳哉

花の雪と雪とも[illegible]白

雪[illegible]日[illegible]

谷のとも山のとも雪[illegible]

水上の岩もとけて流るゝ云

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雪中詩の事
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

作りて毎年[illegible]
谷川のくだりに[illegible]
小家[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

玄以十一　孝よ七　宣元一
法巳十二　快元八
昌叱十一　道元七
[illegible]八
心お十
[illegible]八
[illegible]

天正十三年二月九日

何船

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

有明の花の月にきりぬきて也
うるきさとの花の月にあり叱
藤原の信地さこき毎の月お
とれを今よりるる山桜也
花よ雅な人の家のそうん叱
ちハへそそ石神のまりうお
水上の雲とたゆとみ別て也
さうよんとうとうひ叱
しをひまうまの水の中よお
ひのつくるの人ひ叱
在中より人月ときとさつの花也
過たるまま清きのそお

さく人よりて又ちよそて也
二月ちの中ちとまき灯叱
まうをふ月とうをの巻くまお
ふつてやうを月也合也
時屋も雲の乱巻ひ也叱
行此柄くるの人の油お
年ぬそ活ふ雲巻也
たねいきの中長の松叱
高代や月人香ときとそお
水まを也やるを氏雲く也
ちをまそすくを焼の花を叱
ふ雲人のんうをこうお

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

永禄八年九月十四日

行路　　芝藤記

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三笠山もとの
ぬまのまそ神ハ
ものの名ハ
いとまきそらの
大てい秋のつゆ
ゆきてもとけるこ
年をへてつもるみち
いのちをねがふ
元のれ寺ハ梅の
をちこちの月ハ
らくとの野風の
海とけてら神乃
川舟巴

陸田の刈ほ
鶴ら神ハ
冷〳〵
水ふかくて
松をるれ
耳ひゝくとひ
々の使ひ
風よりまと
毛ふかの
ふくれ
舟乃人
きよかふ

舟
玉
也
表
玉
色
也
表

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一冊十二　宝武八　宝亀一
宝武十二　貞久二
長享十三　応巳十二
享世六　貞國六
元亨七　世忠七
仍素六　高氏八

夢想

[illegible]月星雲深
[illegible]羽宋 全
[illegible]色先[illegible]色
[illegible]声俱宋
[illegible]明わ合お
[illegible]さ也
[illegible]仏[illegible]全
[illegible]お
[illegible]宋
[illegible]全

[illegible]の[illegible]也
[illegible]雪[illegible]宋
[illegible]出て宋
[illegible]也
[illegible]声也
[illegible]空入[illegible]色
[illegible]お
[illegible]枝[illegible]宋
[illegible]中色
[illegible]と[illegible]毎と也
[illegible]父[illegible]や宋
[illegible]の色分
[illegible]月八夜[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

谷川の後世[illegible]相
雲のそこより水出ることを
引て田の[illegible]
[illegible]
[illegible]
田中大[illegible]
[illegible]
[illegible]

宝永七年六月二日

何路　　吉松

松ふるて杉やつき橋ノメ深き
岩根の間ハ夏の霜降
蝉の声山色ふるわけ甲て路
やうしひやうしてるさの道遠高
ちうしこの里やうしの文化年
ちうしこの里やうしの文化年
雪雪ハ花やはの雲ハ霧
りうちうしすきうしの風ハ夜
樹ノ〻の葉ハ小舟をさす高
西一つ北ハ高ハ山と　時雨

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

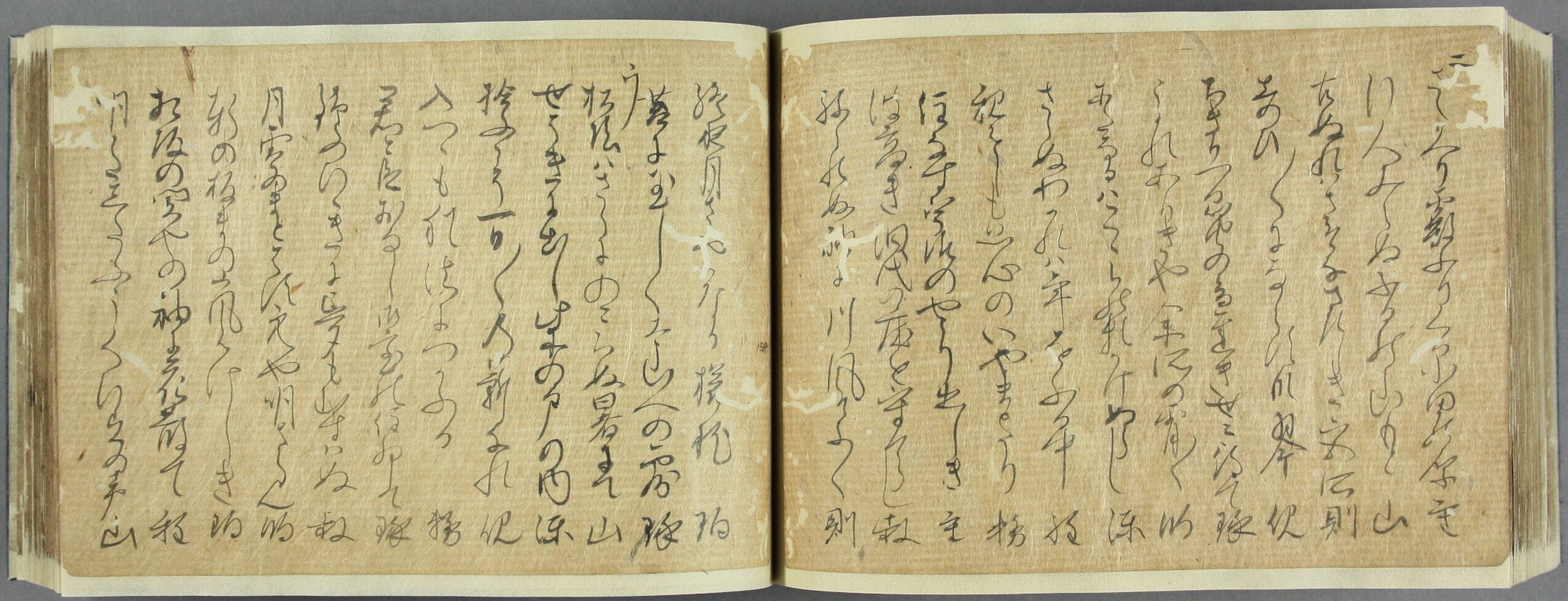
[illegible]

宝永元年九月十六日

行脚　　走脚

下総の国佐倉より二里の所
四日市と云宿迄参詣
筋よりよろく道の右左
ときわ山と云て高き岩見
えたり此の所の名所
云毎年七月十五日の
祭礼の時分にて有
まきの宿にて雪
降て芋村の
道のつよき所
度人出来る

出て舞台を設し人形浄瑠
璃を興行す京の東山劇
有如の所の所の所小七
粉本にて宝永年
間の迄の名所山
よりつよきこと法
師の説教にて伏
山法師の道を
拵も今世間よりの門
月を賞し二月杉村
他所の積る人
元禄年間



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

何人　包

初秋七月の比の事なり
主家いとまを乞て元へ出云
高雅卒業の日の夕暮時
松の木の間に見し月の光
風さゆる夕ふかき頃
田のほとりの人々
流れし流水のさゆる也
人の門をたたきしをうけ
特に情のあるを下落
友よりいとまこいの包

世の中の明あきを示す云
月和也ふまこと明り尽り
ふるとしより所の道也
人の言葉
度の使とまるやうに
毎年別れ
月の中のそこの原云
淀のくらい所
早く京へ
こゝもこゝの私云
京のこゝの所
ゆくこゝ所の玉水行包

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今と人の事なれば張子作りて云
ときき例をとのこと法式法
ぢを四の月や始りて也
実人の数ならぬ云
くまて法ぢのきの法
張子作りて体ぢの所也
山の井の水やしみて云
たるひの宮ぢ云法
ぢ顔のまぢ所也
みまものぢ所の事云
月なり新しや元とまる法
ものもの月まの也

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ほとき立のくさの間川もとの仲
をりは聖のおりてをと候
草花のもとの三月ごろ花
枕ゐ附そ枕はまとて来
そのこそ物のこの月ごろ最
しほくさのもの此の所
四の戸八字ごとあるを候
ものひろひ見て見て候
なとそそ雪ちらせきを候
わすれみのうるはしき中也
数の根をわすれるを迎
ひとけぬ仕やうて上件

ほくさ市のうえ海の迎のうえ海
ゑと墨よ浦をきまり表
海も世をこうこ思ひ花
まうわ思ひこれ家の石仮
月ごろ八月をみけと向花也
れ見て川を向の赤迎色
たのめこそ人公花とかこそ来
花もあるもの色 海
たこ和ゑの枝の碑ら迎
あれこと小明ごもて九
風さう寄のやかぬて仲
あ花と交所のまやこ候

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寛永二年二月十日

山何　亀

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まつまこと信しらぬ[illegible]
かなるかぜのとまりあつて[illegible]
みてくるまもあるこそあるべけ
月と加の池人[illegible]は池
[illegible]なるかぜ桐[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

時とはなれ秋のこころの法こころ長伏
清苔よ焼る頃をたのみて色
あすもまたけのこけくら宗
遥と若草さこる谷の下橋
さえつるの氏百里北戸池
色十句　水無瀬宗祇七　保睦
鶯鳴十　昌俱八
梧十句　行祐　宗清七
水仏句　寿花七
東十句　宗氏七
桜野四七　宗的七

寛永十四年三月十六日　お道屋惟政　山

笠を若草の行やそ千代の文
みそらに秋の立るれ金剛話
山つらの池のうつの雪現情
ちもちの千年ぬはの山人秋萱
小梅氏砂雪きみ山風農
月初のうちの行の春の沢い集
竹もまた池みそ花宗庫
陰宗千年のやの道道
形里面の文はつうの池
合乃生の柳ちうけ二

[illegible]の風流さいへ[illegible]
[illegible]る水上より山・峯
[illegible]ひ[illegible]ぬ[illegible]るかの
大井の里人明るれば山
[illegible]の[illegible]谷のいほ[illegible]
[illegible]そうまもあき梧
[illegible]ゆ[illegible]ふ[illegible]
[illegible]き[illegible]ゆ[illegible]ふ[illegible]
[illegible]の[illegible]ふ[illegible]
[illegible]人[illegible]き[illegible]伴
[illegible]の[illegible]に
[illegible]の[illegible]

一

[illegible]人[illegible]の[illegible]山
[illegible]の[illegible]山
[illegible]入人
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

明治十四年十二月十二日

[illegible]

[illegible]

[illegible]